

ニュース

第1号

2008年6月13日(金)

発行所

ミント学習教室

〒370-0013 群馬県
高崎市秋原町 950-31
Tel 027-353-1091

紙面案内

記事	新学期を向かえた授業風景	一面
連載	フォニックススライム	
特集	電子黒板対応教材 気づき・・・自律的理解を 促す授業運営と教材	二面

ユーザーサポート 027-353-1091

m-Boxed やプレーヤーミント
利用方法のお尋ねや教材
のお問い合わせは電話で受
け付けています

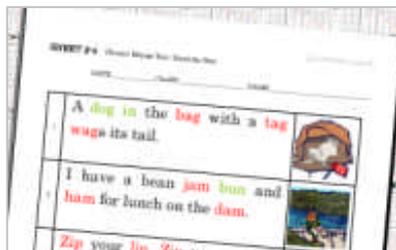
フォニックススライムで 新学期が好スタート

配られたプリントを手にした生徒たちが口々に朗読を始めた。英語を始めて日の浅い子はまだたどたどしいが、イントネーションがしっかりとっている。どうしてですか？と、担当の高橋先生にお話をうかがった。

イントネーションが しっかりと朗読

「リッスン&リピートするとき、3〜5単語ごとに区切って練習するので、読むときもそのリズムのままです。」(高橋)

確かに子どもたちは意味ある句切りのところで文を分けて読んでいます。でもそれだと、耳で覚えているのを口にしていただけなのは、**・・・**と意地悪質問をぶつけてみた。耳で覚えたリズムと目で見た文字を頭の中で合せているのです。たとえ



課の仕上げに使うワークブックのプリント。単語が色分けされている。

「こんなことがありません。」
「そうやって詳しく話を聞かせてくれた。」

よく使う単語は 自然に読めるように

「テキストを読み聞かせるときはスクリーンの絵と文字を見ながらみんなで一緒に声を出すだけで、文法的な説明はしませんし、質問されない限り意味も言いません。赤い文字

の単語はフラッシュカードで習っているの
で、絵を見ながら自分
で文の意味を推測して
いるだけです。でも、**た**
とか**ま**とかよく出て
くる黒い字も読めるよ
うになっていました。
自分で学ぶのですね。」
「それに、こんなこ
ともありました。」
「と言って苦笑いしな
がら話してくれました。」

「リッスン&リピートで使った文章と、ドリルの文章がちよっと違うところがあつたのですが、生徒たちはそこでつまづいてしまいました。ああ、ちゃんと読んでみると、そのときわかりました。」

秘訣は字音義一体と 先音後字の授業方法

プロジェクトを使っ
て音声と意味(絵)と
文字を同時に提示して
いく「字音義一体」と

従来型フォニックス の弊害を克服できた

フォニックススライム
と言う名前はなじみが
ないが、従来のフォニ
ックスとはどこがちが
うのだろうか？これも
高橋先生にお聞きし
た。
「フォニックスは以
前から教えていまし
た。あぶく読みでアル
ファベットの読みから

いう気づきを大切に
した授業方法と、まず
耳から音を入れ、その
あと文字で読むように
するという音声重視の
「先音後字」がうまく
回転しているようだ。



課の最初はフラッシュカードでライムのそろった18個の単語を学ぶ

初めてのコンピューター 授業でも安心

高橋先生はコンピューターは初心者だそう
だ。それでいて順調に
成果をあげているのは
「先生の熱意と使い勝
手のいい電子機器の支
援があるから」とマイ
ク先生は言う。

← お得情報

フォニックススライムのワー
クブック(プリント)を希
望者にメール配信中(無
料)。連絡はミント学習教室
(027-353-1091 田淵)へ。



小学校6年生のクラス。音と絵と文字がはぎれよく提示されて、使い始めて2ヶ月目とは思えないほど、なめらかに授業がすすんでいた。

小学校英語向け 電子黒板対応教材



電子黒板を使うようにと文科省は予算を組んでいる。電子黒板でどんな授業ができるのか。それを授業の組み立ての基本である提示と演習で考えてみた。

提示とは、音や絵を効果的に提供して英語を刷り込んでいくこと。たとえばチャントの声に合わせて絵をフラッシュさせる。新しい音と意味を印象付けて

さらに反復練習。演習とは、刷り込んだ内容を使って活動すること。特に仲間とのクラス活動が効果的。こうした提示と演習に、電子黒板は高い効果を発揮する。

道具としての電子黒板と教材の組み合わせ

ところで電子黒板はそれだけではただの板

に過ぎない。この道具を使うには電子教材とソフトが欠かせない。それがE-Boardだ。電子黒板のある視聴覚教室に入ると、先生はエムボックスをコンピュータに挿し込み、自宅で準備しておいた教材を開く。生徒の視線は一齐に電子黒板に集中し、模範音声に合わせて元気に声を出す。授業スタイルは今ま

での対面式一斉授業だから先生の負担も少ない。これまでのCDと黒板が電子黒板に変わっただけ。しかしそれは、必要な音を文字や絵と頭出し一発のピンポイントで提供できる優れものになっていく。新しい表現空間だ。電子黒板を使った授業のポイントを、三年間の授業実践に基づいてこれから連載する。

お知らせ

フォニックスライムが、まもなく改訂

フォニックスライムがまもなく一年目を迎える中、改訂作業がすすんでいる。これは塾だけでなく、小学校などでの利用に合せたものである。

阿部フォード恵子先生とマイク先生監修

監修は阿部フォード恵子先生とマイク先生が担当。E-Boardのプレイヤーは無料ダウンロードする予定。

この能力を使って英語をマスターできればこんな素敵なことはいですね。そう考えた人は海外に留学します。では、留学できない人は... 駅前留学...?

「あつそうか」と気づいたものが身についていくのです。「そうだ」と気づくまでには何度も何度も本物に触れる必要があります。この「何度も何度も」

気づき... 自律的理解を促す 授業運営と教材



お母さんに音声学的な知識がなくても赤ちゃん言葉をしやべり始めますし、子どもは文法を学ぶ前から言葉を自在に使いこなすようになります。なぜでしょう?

それは人間の脳がそのようにできているからです。生まれながらに言語を習得できる能力を備えているのです。これを言語能力とか統語能力と言います。

生得の言語能力を利用して知識や技能を習得するには「気づき」を上手に使えばよいのです。

生まれながらに備わる言語能力 この能力があるから日本に暮らす人は日本語がしゃべれるようになるのです。

日本古来の巧みの技は教えられて学ぶのではなく見て盗むと言われます。名人の技を見

ということを授業でどうやって実現するのかが...それが電子教材の役割です。人間には真似できない忍耐力でいつも同じ絵や音を繰り返し繰り返し提供するのですから。うまく気づくように教材を

フォニックスの規則と言う知識を教えるても英語は身につけません。フォニックスの規則を使った教材で英語をシャワーのように浴びせて規則に「気づかせる」それがフォニックスライムです。

母音重視のフォニックスライムを2ヶ月も続けると、あぶく読みを教えずに自然と音の読み方がよせられていきます。

文科省が英語ノートを発表してから2ヶ月、その波紋は次第に大きくなっていくように。特に現場には「ノートにあることしかできないのでは」という不安が広がっている。

ひまわり

英語ノートとフォニックスライム

これについて文科省教科調査官の菅正隆さんは「英語ノートは、これまでそれほど積極的になかった学校」向けの「最低基準」で、これまで積極的に進んできた学校の活動を制限するものではない」と見解を示している。

英語ノートにフォニックスがないから、音と文字の関係をきちんと教えてはいけないのかと心配する先生が出てくることを見越した発言のようだ。

いくら「遊び感覚」と言っても、文字を使わないではゲームの幅も狭まってしまふ。ゲーム感覚で文字に馴染むためにも、絵と音と文字をちゃんとわかっていくことが大切になってくる。